

奥谷池 (おくたにいけ)

位置図



諸元

貯水量	352 千m ³
満水面積	4.4 ha
受益面積	234.0 ha
堤高	23.6 m
堤長	172 m

奥谷池は香川郡香南町東岡村悪所免の谷の最奥に築造されていることから、奥谷池と名付けられたものと考えられています。築造の年代は不詳ですが、江戸時代の儒学者中山城山著の『全讃史』には、正保2年(1645年)松平侯の代に、家臣矢延平六に命じ「新池四百有六を造る」と記されており、香南町にある容量の大きいため池は、このころの築造と推測されています。

奥谷池はその後、天保9年(1838年)や明治32年(1899年)頃に増築がなされたと記録されています。近年では、香南平野を一望するこの岡台地に、新高松空港が建設されることが決定したことを受け、ため池敷の一部が空港用地として提供されることとなりました。これを期に、新高松空港関連補償ため池工事として、全面的な改修の計画をたて、昭和59年(1984年)に着工し、7億1500万円程を要して昭和62年(1987年)8月に竣工を迎えました。

堤防西側の一段高い山腹には、池の宮と山林に祀られていた祭神合わせて二柱が鎮座しており、毎年10月には例祭が行われ、四か村(岡・由佐・吉光・横井)水利役員一同が参列し、水の恵みに感謝の意を表しています。



堤頂より上流を望む



下流に広がる香南平野